

まえだ

八郎瀧町 小池 ^{まえだ}前田

「前田」は館に属し、館の前面にある田地の意である。

(1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)

まさか

八郎瀧町 ^{まさか}真坂
八郎瀧町 真坂 南真坂

1. まさか

『日本書紀』に「658年越国(新潟県付近)の阿倍比羅夫が180艘の船団で鰯田の浦に来た」とある。その時、鰯田(秋田)の首領 恩荷は比羅夫に敵意のないことを誓う。その際、マサカの木を立てて誓約したと伝えられる。そのマサカ木を立てた所が「マサカ木村」、今の真坂であるといわれている。

(五城目郷土史)

2. まさか

高岳山西部の八郎瀧に臨む八幡台の傾斜地に当たる。郡邑記に「真坂新田村、寛永2年(1625)開地」とあり、梅津主馬氏の指紙開である。秋田風土記には「人家51戸、支郷新田」とでている。

(1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)

3. まさか

真坂は高岳山の西麓に位置し、中央部に古屋敷の地名があり、そのT字路から沢田遺跡のところ(今は栄寿苑)まで長い坂道が続く、その坂の拠点であるから真坂地名かと思ったが、一説には古い時代に美倉鼻を越えるに困難で高岳山鞍部の五輪坂を越えたものという。この五輪坂からとった真坂地名が有力のようである。戸数は「享保郡邑記」では27軒だった。真坂の鎮守は八幡神社で、部落のすぐ上の大地にあり、付近の大地を八幡台という。

八幡神社を訪れると神聖、静境で、いかにも「村の鎮守さま」の感がある。

(1996

年八郎瀧広報 島山四郎著
ふるさと散歩108 地名と歴史(4)

4. まさか

真坂も南北に細長い街村をなし、道は拡幅されているが、集落北部においても道筋は藩政期と同じである。集落中央部の左手郵便局を越えて間もなく、右手真東に分かれる道があるが、これも浦大町・浦横町・岡本をへて五城目に抜ける脇道である。五城目に向かう道はこれと、夜叉袋から南北朝板碑がかなり現有する小池を通るもの、そして一日市から入る五城目街道があった。いずれも中世以来の道である。北上する街道は真坂の集落が終わる辺りで北西に向きを変えるが、現齊藤家の所から右方向に分かれる通があり、これは現国道七号線を越えて北東方向にすすんでいる。現在も確認されるが、通称「五輪坂越え」の古道である。高岳山の北側鞍部を経て現山本郡琴丘町市野に達するが、三倉鼻を通過する羽州街道が開通する前は、専らこれを利用したという。街道はその後、東側を平行して北上する国道と交叉し、西側をはしる奥羽本線と平行して三倉鼻に達した。真坂村の村勢は『秋田家文書』天正19年(1591)に「満さか村」と見え、文禄元年(1593)の『秋田実李分限帳』に「百拾式石七斗四升真坂村」とある。正保4年(2847)の『出羽一図絵図』には新田とあるが、中世以来の村で沢田に貞和2年(1346)の板碑がある。『六郡郡邑記』では27軒、『秋田風土記』では51戸であった。

「歴史の道調査報告Ⅳ 北部羽州街道」

秋田県教育委員会

5. まさか(八郎瀧町)

満坂とも書く。高岳山の西麓、筑紫岳・三倉鼻の南麓に位置する。縄文中期の沢田遺跡がある三倉鼻開削による羽州街道の整備まで、高岳山鞍部の五輪坂越え北方の市野に至る難路があり、地名はこの坂によるかという。